

EDION PEACE WING HIROSHIMA

本作品は、広島市中心部に整備されたスタジアムにおいて、都市と一体となる開かれた空間構成と、「平和の翼」をコンセプトとした象徴的な大屋根を実現したものである。周辺の公園や水辺空間と連続する計画により、スタジアム単体に閉じない都市的な広がりを生み出している。

膜構造の観点では、天然芝育成に必要な日照条件を確保するため、南側屋根に高い透過性能を有する ETFE 膜を採用している点が特徴的である。一方で、夏季の熱環境にも配慮し、全面的に ETFE 膜を使用するのではなく、必要な範囲に限定して採用することで、日照確保と熱負荷低減の両立を図っている。

また、単層テンション方式に再張力導入機構を組み合わせることで、維持管理まで見据えた丁寧な計画となっている。膜は建物全体の中では一部分に使用されているため主役となる存在ではないものの、脇役として違和感なく全体デザインに溶け込みながら、天然芝育成に必要な採光確保という重要な役割を担い、機能的にも十分に膜の特性を発揮している点が印象的であった。

さらに、張弦梁構造による大スパン屋根と膜構造を組み合わせることで、構造的合理性と軽快な外観を高い次元で両立しており、スタジアム全体に浮遊感のある伸びやかな空間を生み出している。

日本のスタジアムにおいて ETFE 膜を本格採用した初の事例として、今後のスポーツ施設や大空間建築における ETFE 膜普及の可能性を広げるものであり、膜構造デザイン賞にふさわしい作品である。

表彰委員 飯塚宜広